令和２年度
埼玉学園大学大学院
子ども教育学研究科 FD 活動報告書

令和３年 11 月 10 日

子ども教育学研究科

Ｆ　Ｄ　委　員　会

目　　次

1　はじめに ･･･ 1

2　FD 活動に関する基本方針･･･ 2
　２－１　ＦＤ委員会の委員構成 ･･･ 2
　２－２　ＦＤ委員会の開催日及び議題･･･ 2

3　子ども教育学研究科教育体制
　３－１　教育方針（ポリシー）･･･ 3
　３－２　３ポリシーの検証 ･･･ 4
　３－３　教育実施体制･･･ 5

4　大学院生による授業アンケート
　４－１　授業アンケート実施概要 ･･ 12
　４－２　授業アンケート実施結果･･ 13

5　教員による授業報告 ･･･ 19

6　研究発表会及び意見交換会
　６－１　研究発表会･･ 24
　６－２　大学院専任教員と客員教員及び大学院生による意見交換会･･････････････ 24

7　論文審査について ･･ 25

8　おわりに ･･ 25

参考資料
　1　埼玉学園大学大学院ＦＤ委員会規程･･････････････････････････････････････ 26
　2　授業についてのアンケート（様式）･･････････････････････････････････････ 27

1　はじめに

埼玉学園大学大学院子ども教育学研究科臨床子ども教育学専攻は、平成 27 年度に開設された。その目的は、教育の理論と実践を往還しながら、自らの教育実践理論を構築できる資質と力量をもつ人材の養成であり、将来スクールリーダーとして活躍できる高度な専門的知識と技術を修得した人材の養成である。これは、本学の教育理念である「広く社会に貢献できる人材を養成」に沿うものである。

設置後第６年度が終了した段階で、子ども教育学研究科における大学院教育が当初の教育目標を十分達成されたかどうかを検証し、もし不十分な点があれば早急に改善を図ることにより、同研究科の教育をより充実したものにするために、令和２年度埼玉学園大学大学院子ども教育学研究科ＦＤ活動報告書を作成した。

2　ＦＤ活動に関する基本方針

子ども教育学研究科におけるＦＤ委員会の基本方針と役割、ＦＤ委員会規程については、当初の通りで変更はない。（参考資料１）

ＦＤ委員会の構成は、以下の通りである。

2-1　FD 委員会の委員構成

委員等	所属・職名	氏名
委員長	ＦＤ委員長	堀田　正央
委　員	子ども教育学研究科講師	高橋　　誠
委　員	子ども教育学研究科講師	堀田　　諭
委　員	子ども教育学研究科客員教員	久保田善彦

2-2　ＦＤ委員会の開催日及び議題

ＦＤ委員会の開催日及び議題

令和２年度に開催された委員会の日時と議題は以下の通りである。

【令和２年度】

開催日	議題
令和２年 ７月８日	(1) 令和２年度子ども教育学研究科研究発表会の実施について (2) 令和２年度子ども教育学研究科教育研究に関する意見交換会の実施について (3) 令和元年度子ども教育学研究科ＦＤ活動報告書について
令和２年 11 月 13 日	(1) 令和２年度子ども教育学研究科研究発表会の報告について (2) 令和２年度子ども教育学研究科意見交換会の報告について
令和３年 ２月 10 日	(1) 令和３年度子ども教育学研究科のＦＤ活動について (2) 令和２年度自己点検チェックシートの策定について (3) 令和２年度子ども教育学研究科のＦＤ活動及び自己点検評価活動報告について

3　子ども教育学研究科教育体制

3 - 1　教育方針（ポリシー）

【子ども教育学研究科修士課程】

Ⅰ．卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

子ども教育学研究科では、学校教育において複雑化・多様化する社会背景のもとに顕在化する多様な学校教育課題に教育学的内容知識を基に課題を正確にとらえ分析し、解決方策を構築し、それを実践知力まで高め、その実践結果を評価・改善し、理論化するという研究能力と実践理論を身につけた人材の養成を目的とします。このため、学位授与のためには、次のような条件を満たす必要があります。

1. 本学の教育課程において所定の単位を修得し、以下に示す教育研究及び教育実践力を修得したと判定されること。
   ①　教育実践の省察をもとに、主体的・継続的に学び続け、自らの教育実践理論を構築することができる力量
   ②　教職員と協働して学校組織における教育活動を活性化させる協働力
2. 本学の教育課程において教育課題の解決に関する理論的探究と実践的研究を行い、修士論文としてまとめ口頭試問に合格すること

Ⅱ．教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

1. カリキュラムの編成

子ども教育学研究科では、教育に関する専門的知識や専門職としての資質・能力の向上を図り、保育・教育の創造に主体的に取り組むことのできる実践的力量を有する人材を育成するために「理論を学ぶ科目」「理論と実践を往還する科目」「自らの教育実践理論を構築する科目」を構造化し、有機的関連を図ったカリキュラムを編成しています。

2. 教育の実施体制

各授業科目を担う教員が子ども教育学における教育・研究の使命をもち、保育・教育における高度な知識と実践的力量について互いに共有し、協働体制のもと教育を進めます。

3. 教育の評価

各授業科目は本学の理念・目的に沿った目標を定め、到達目標並びに評価の基準・方法を学生に周知し、成績評価を行います。また、FD 委員会、研究発表会を定期的に開催し、学生による授業評価の結果をもとにカリキュラムの評価・改善を図り、教育の質保証をします。

Ⅲ．入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

子ども教育学研究科では、「自立と共生」を理念に豊かな教養と子供に対する深い愛情と保育・教育に対する強い使命感をもち、高度な専門的知識と教育実践的力量を有する人材の養成を目指します。そこで、次のような能力・意欲・適性を持った学生を求めます。

①　学部段階で培われた資質能力をもとに保育・教育に関する研究に意欲的に取り組もうとする者。

②　学校や地域において指導的役割を遂行できるスクールリーダーとなることを志向し、高度な実践力を修得しようとする者。

本研究科は、研究奨励目的に成績優秀な学生に選考により、最大２年間にわたり、返還のない奨学金制度を備えています。

3 - 2　３ポリシーの検証

Ⅰ. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーにおいて示された“自らの教育実践理論を構築することができる力量”および“教育活動を活性化させる協働力”は不易流行が求められる社会背景において益々重要なものとなっている。前者においては各特論を始めとした講義科目、後者では本研究科の特色であるチーム・ティーチングによる演習科目によって、２年間を通じて培うことができていると考える。直近の修了生では教員や他学生との協働によって多くの知見を得、修士論文のテーマを大幅に変更したケースが見られたが、一定の教育実践理論の構築に至ったものと判断されている。令和３年度において修士論文作成のための教育課題研究の科目を増加し、1年次春期から、より長期視野で論文作成に取り組むことが可能となった。今後もカリキュラム・ポリシーとの整合性をとりながら、より高い教育の成果の質を担保するための評価・改善を継続していきたいと考える。

Ⅱ. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

教育分野は教養教育と専門教育の複合性が高く、職業的専門性と学問的専門性が密接していることから、各科目の目的が逆説的に見えにくくなる場合が考えられる。本研究科においては各科目がどのような目的でどのような資質・能力を養うものであるのかを明示するために、「理論を学ぶ科目」、「理論と実践を往還する科目」、「自らの教育実践理論を構築する科目」としてカリキュラムを構造化し、学生/教員が学びの成果を確認しやすい教育課程を編成している。特に理論と実践の往還の観点からは、各学校を始めとした地域連携等について、令和３年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響から十分な機会が得られなかった。しかし各授業の中でメディア・リテラシーや ICT 教育の内容を盛り込むことで、現在求められている教師としての素養をより深めることができた面もある。教員による研究発表会では過去最多の学生参加があり、研究科内の協働性の高さの一つの現れとして、今後の改善にむけた方針の妥当性を確認することができた。

Ⅲ. 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

“保育･教育に関する研究に意欲的に取り組もうとする者”､“スクールリーダーとなることを志向し、高度な実践力を修得しようとする者”の２点を意識し、令和３年入試においても教師としての展望と研究計画の内容を重視した。入学/進学者は内部受験者から１名､外部受験者から１名の計２名であったが、外部受験者からは初の外国人留学生の受入れとなった。教育現場におけるダイバーシティ・マネージメントの必要性の観点からも、多様な背景に基づいた学部以前の学びを持った学生同士は、より有益な相互作用が期待できる。入学/進学者にはスクールリーダーへの志向と研究への十分な資質･能力を持ちながら、主体的かつ積極的に取り組む姿が見られており、アドミッション・ポリシーが適切に機能したと評価している。今後入学希望者の多様化が更に進むことが予測され、アドミッション・ポリシーを遵守しながら公正な受け入れ態勢を整えることが課題である。

3 - 3　教育実施体制

令和２年度は、専任教員及び客員教員を併せて、17 名の教員で授業・研究指導を行った。それぞれの詳細は、次の通りである。

3 - 3 - 1　専任教員

No.	氏名	職位	学位
1	堀田　正央	教　　授	修士（保健学）
2	浦野　　弘	教　　授	修士(教育学)
3	斎藤　　昇	教　　授	博士（工学）
4	長友　大幸	教　　授	博士（学術）
5	野瀬　清喜	教　　授	博士（体育学）
6	森本　昭宏	教　　授	修士（教育学）
7	川喜田昌代	准 教 授	修士（人間科学）
8	杉浦　浩美	准 教 授	博士（社会学）
9	増南　太志	准 教 授	博士（行動科学）
10	吉野　剛弘	准 教 授	博士（教育学）
11	高橋　　誠	講　　師	博士（教育学）
12	堀田　　諭	講　　師	修士（教育学）

合計 12 名

3 - 3 - 2　客員教員

No.	氏名	職位	学位
1	久保田善彦	教　　授	博士(学校教育学)
2	葉養　正明	教　　授	修士(教育学)
3	森田　裕介	准 教 授	博士(学術)
4	中本　敬子	博士(教育学)	博士(文学)
5	細川　太輔	博士(教育学)	博士(教育学)

合計５名

3-3-3　担当授業科目・研究指導

各教員の担当授業は、下記の通りである。

埼玉学園大学大学院　子ども教育学研究科臨床子ども教育学専攻修士課程　授業科目及び担当教員

科目区分		科目名	担当教員
子ども教育学講義科目	子ども教育学基盤科目	教育人間学特論	吉野　剛弘
		子ども発達特論	高橋　　誠
		学習心理学特論	中本　敬子
		発達障害支援特論	増南　太志
		子どもと家庭支援特論	杉浦　浩美
		学校マネージメント特論	葉養　正明
		多文化子ども教育特論	堀田　正央
		教育方法学特論	浦野　　弘
		教育実践研究特論	野瀬　清喜
		カリキュラム開発特論	久保田善彦
		教育メディア特論	森田　裕介
	教科・保育内容関連科目	子どもの言葉特論	細川　太輔
		子どもの数・図形概念特論	齋藤　　昇
		子どもの科学認識特論	長友　大幸
		子どもの造形表現特論	森本　昭宏
		子どもと道徳特論	堀田　　諭
子ども教育学演習科目		小学校授業実践演習	齋藤　昇/細川　太輔
		幼稚園教育実践演習	高橋　誠/川喜田　昌代
		教材・環境開発演習	長友　大幸/森本　昭宏
		いじめ・自殺・不登校問題演習	増南　太志/吉野　剛弘
		地域連携プロジェクト演習	堀田　正央/杉浦　浩美
研究指導		教育課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	堀田正央/浦野弘/齋藤昇/長友大幸 増南太志/吉野剛弘/堀田諭

3-3-4　カリキュラム

本研究科の教育課程の具体的目標は、高度な教育理論と実践的な教育方法を培い、現代の教育におけるさまざまな問題を解決する教育実践理論の構築と、質の高いコミュニケーション能力により教育活動や課題解決に向け協働できる人材の養成である。

これらの目的を達成するために、「子ども教育学講義科目群」、「子ども教育学演習科目群」、「研究指導」の３科目群で教育課程を編成した。「子ども教育学講義科目群」は、「子ども教育学基盤科目」と「教科・保育内容関連科目」から構成している。具体的な編成は以下の通りである。

【教育課程の概要　子ども教育学研究科　修士課程】

学位又は称号	修士（教育学）	学位又は研究科の分野	教育学関係
卒業要件及び履修方法		授業時間等	
「子ども教育学講義科目」の「子ども教育学基盤科目（11 科目・22 単位）」のうちから４科目８単位以上を選択必修、「教科・保育内容関連科目（5 科目・10 単位）」のうちから２科目４単位以上を選択必修。「子ども教育学演習科目（5 科目・10 単位）」のうち「小学校授業実践演習（2 単位）」及び「幼稚園教育実践演習（2 単位）」を必修科目とし、2 科目 4 単位以上を修得。「研究指導（3 科目・6 単位）」6 単位必修とし、合計で 30 単位以上を修得し、かつ、修士論文を提出しその審査及び最終試験に合格すること。		1 学年の学期区分	2 学期
		1 学期の授業期間	15 週
		1 時限の授業時間	90 分

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験実習
子ども教育学講義科目	子ども教育学基盤科目	教育人間学特論	1		2		○		
		子ども発達特論	1		2		○		
		学習心理学特論	1		2		○		
		発達障害支援特論	1		2		○		
		子どもと家庭支援特論	2		2		○		
		学校マネージメント特論	2		2		○		
		多文化子ども教育特論	2		2		○		
		教育方法学特論	1		2		○		
		教育実践研究特論	1		2		○		
		カリキュラム開発特論	1		2		○		
		教育メディア特論	2		2		○		
	教科・保育内容関連科目	子どもの言葉特論	1		2		○		
		子どもの数・図形概念特論	1		2		○		
		子どもの科学認識特論	1		2		○		
		子どもの造形表現特論	1		2		○		
		子どもと道徳特論	1		2		○		
子ども教育学演習科目		小学校授業実践演習	1	2				○	
		幼稚園教育実践演習	1	2				○	
		教材・環境開発演習	2		2			○	
		いじめ・自殺・不登校問題演習	2		2			○	
		地域連携プロジェクト演習	2		2			○	
研究指導		教育課題研究Ⅰ	1	2				○	
		教育課題研究Ⅱ	1	2				○	
		教育課題研究Ⅲ	2	2				○	
		教育課題研究Ⅳ	2		2			○	

3 - 3 - 5　時間割表

令和２年度　埼玉学園大学大学院　子ども教育学研究科時間割表

【春期】

	月			火			水			木			金		
時限	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室
1限 9：00 ～ 10：30										子どもの言葉特論	細川太輔	312	多文化子ども教育特論	堀田正央	312
2限 10：40 ～ 12：10							子ども発達特論	高橋 誠	312	小学校授業実践演習	齋藤　昇 細川太輔	312	教育人間学特論	吉野剛弘	312
3限 13：00 ～ 14：30										子どもの数・図形概念特論	齋藤 昇	312			
4限 14：40 ～ 16：10										子どもと家庭支援特論	杉浦浩美	312			
5限 16：20 ～ 17：50										教材・環境開発演習	長友大幸 森本昭宏	図工室 312			
6限 18：10 ～ 19：40															

「教育課題研究Ⅰ・Ⅱ」は、主指導教員、副主指導教員と院生との協議により、時間を決めて行うこととする。

【秋期】

	月			火			水			木			金		
時限	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室
1限 9：00 ～ 10：30							地域連携プロジェクト演習	堀田正央 杉浦浩美	312						
2限 10：40 ～ 12：10				教育方法学特論	浦野　弘	312	子どもと道徳特論	堀田　諭	311	子どもの科学認識特論	長友大幸	312	学習心理学特論	中本敬子	312
3限 13：00 ～ 14：30										幼稚園教育実践演習	川喜田昌代 高橋　誠	312			
4限 14：40 ～ 16：10				子どもの造形表現特論	森本昭宏	図工室				教育実践研究特論	野瀬清喜	312			
5限 16：20 ～ 17：50										発達障害支援特論	増南太志	312			
6限 18：10 ～ 19：40										いじめ・自殺・不登校問題演習	増南大志 吉野剛弘	312			

「教育課題研究Ⅰ・Ⅱ」は、主指導教員、副主指導教員と院生との協議により、時間を決めて行うこととする。

3 - 3 - 6　院生

今年度（令和２年５月１日現在）本学大学院に在籍する院生の詳細は、以下の通りである

総数、入試形態別人数、年齢別人数、男女別人数

①　総　　数　２名

②　入試形態別人数（名）

	一般選抜	学内選抜
修士課程１年	-	2
修士課程２年	-	-

③　年齢別人数（名）

	22 歳～25 歳	26 歳～30 歳	31 歳～35 歳	36 歳～40 歳	41 歳～
修士課程１年	2	-	-	-	-
修士課程２年	-	-	-	-	-

④　男女別人数（名）

	男性	女性
修士課程１年	-	2
修士課程２年	-	-

3 - 3 - 7　研究題目一覧

＜修士課程１年＞（令和２年６月 30 日現在）

・保育現場で必要とされる保育と指導者のあり方について

・複式学級における理科授業作りについて

3 - 3 - 8　履修状況

履修状況及び定期試験実施方法は、次の通りである。

【春期】

科目名	担当者	受講者数
子ども発達特論	高橋　　誠	2
子どもの言葉特論	細川　太輔	2
子どもの数・図形概念特論	齋藤　　昇	2
子どもと家庭支援特論	杉浦　浩美	2
教材・環境開発演習	長友大幸/森本昭宏	2
多文化子ども教育特論	堀田　正央	2
教育人間学特論	吉野　剛弘	2
教育課題研究Ⅰ	堀田　正央	1
	長友　大幸	1

【秋期】

科目名	担当者	受講者数
発達障害支援特論	増南　太志	2
いじめ・自殺・不登校問題演習	増南太志/吉野剛弘	2
地域連携プロジェクト演習	堀田　正央/杉浦　浩美	2
子どもと道徳特論	堀田　　諭	2
幼稚園教育実践演習	川喜田昌代/高橋誠	2
教育方法学特論	浦野　　弘	2
子どもの造形表現特論	森本　昭宏	2
子どもの科学認識特論	長友　大幸	1
教育実践研究特論	野瀬　清喜	2
学習心理学特論	中本　敬子	1
教育課題研究Ⅱ	堀田　正央	1
	長友　大幸	1

3 - 3 - 9　定期試験実施方法

【春期】

新型コロナウイルスの影響により、定期試験は、授業内のレポート課題等に替えて実施した。

【秋期】

科目名	担当者	定期試験
発達障害支援特論	増南　太志	レポート
いじめ・自殺・不登校問題演習	増南太志/吉野剛弘	レポート
地域連携プロジェクト演習	堀田　正央/杉浦　浩美	レポート
子どもと道徳特論	堀田　　諭	レポート
幼稚園教育実践演習	川喜田昌代/高橋誠	レポート
教育方法学特論	浦野　　弘	レポート
子ども造形表現特論	森本　昭宏	レポート
子どもの科学認識特論	長友　大幸	レポート
教育実践研究特論	野瀬　清喜	レポート
学習心理学特論	中本　敬子	レポート

/

4　大学院生による授業アンケート

4 - 1　授業アンケート実施概要

令和２年度春期における授業を対象として７月に、秋期における授業を対象として 12 月に、院生への授業アンケートを実施した。対象科目は２名以上の講義科目である。

実施時期

春学期：令和２年７月 27 日（月）～ ８月７日（金）

秋学期：令和２年 12 月７日（月）～ 12 月 18 日（金）

実施方法

春学期・秋学期ともに、科目担当者がアンケート用紙を配布、実施した。回答用紙の回収については、院生が回収し、事務に提出することとした。

回答学生数

春学期：履修者数（延べ人数）14／アンケート回収数 14（回収率 100%）

秋学期：履修者数（延べ人数）12／アンケート回収数 12（回収率 100%）

実施結果

結果は、次項からの記載内容の通りであるが、全般的にきわめて満足のいく結果を得ることができた。なお、授業アンケート用紙は参考資料として掲載している。

4 - 2　授業アンケート実施結果

子ども教育学研究科　修士課程

【春期】授業アンケート実施期間：令和２年７月 27 日（月）～ ８月７日（金）

【春期　授業アンケート】

【子ども発達特論】（高橋　　誠）

８月５日（水）　３時限　　履修者数　２　提出者数　２

１.この授業を履修した理由は何ですか。
・子どもの発達について興味があったからです。
・単位のため。面白そうだったから。

２.この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
・学生に向けて「小１プロブレムとは？」についての授業を行ったことがとても良い経験になりました。
・１つのことに対して、深く考え、それを発揮する場があった。

３.全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
・とても充実していました。
・満足。楽しく、考えていくことができました。

４.この授業について、要望があれば記入してください。
・特にありません。

以上

【子どもの言葉特論】（細川　太輔）

７月 30 日（木）１時限　　履修者数　２　提出者数　２

１．この授業を履修した理由は何ですか。
・単位のため。
・子どもの言葉について学びたかったからです。

２.この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
・子どもの言葉に関することや、今までに聞いたことのない海外の教育について知ることができた。
・子どもの言葉の成長について着目することができ、先生が教えてくれた本では面白いことが沢山学べました。

３.全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
・満足でした。本を“理解して”読むことができた。
・難しい面もありましたが、満足しています。やりがいがありました。

４.この授業について、要望があれば記入してください。
・楽しかったので、特にありません。
・特になし。

以上

【春期　授業アンケート】

【小学校授業実践演習】（細川太輔、齋藤　昇）
7月30日（木）２時限　　履修者数　２　　提出者数　２

1.この授業を履修した理由は何ですか。
・最初は取らなくてよいと思っていたのですが、必修科目だったのであわてて履修しました。
・必修。小学校の免許のため。

2.この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
・小学校の様子について、たくさんの写真を先生が見せてくれたので知ることができました。
・海外のことや実際の小学校の実践的なことも知れたので良かったです。

3.全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
・途中からの参加でしたが、もっと受けたいと思いました。
・満足です。とても楽しく、いろいろな授業を知れました。

4.この授業について、要望があれば記入してください。
・特にありません。（複数回答）
・先生がWi-fiが弱いと言っていました。

以上

【子どもの数・図形概念特論】（齋藤　　昇）
7月30日（木）３時限　　履修者数　２　提出者数　２

1.この授業を履修した理由は何ですか。
・取らないといけない授業だったのと、単位が不安だったからです。
・数学が好きで、数や図形という言葉に興味を持ったから。

2.この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
・“創造性”に着目して他の研究にも取り入れることができました。
・学習指導要領の考え方や、何に視点をおいて考えるか等の幅が広がった。

3.全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
・質問に対し、先生が丁寧に教えて下さったので満足しています。
・満足です。

4.この授業について、要望があれば記入してください。
・特になし

以上

【春期　授業アンケート】

【教材・環境開発演習】（長友　大幸、森本　昭宏）
８月６日（木）５時限　　履修者数　２　提出者数　２

１.この授業を履修した理由は何ですか。
・資格に必要になるから。面白そうだと思った。
・子どもに向けての教材について学べると思ったからです。

２.この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
・色々な実験や製作を通し、子どもに関わる上で必要になるかもしれない技術が身につき、子どものことを考えながら論文を書くことに役に立ちました。
・折り紙をしたり、子どもが喜びそうな実験を見せてもらったり、自分で発表したりなど、良い勉強になりました。

３.全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
・満足です。
・満足できましたが、折り紙などはオンラインで学ぶのが困難でした。

４.この授業について、要望があれば記入してください。
・特になし・またやりたいです。

以上

【多文化子ども教育特論】（堀田　正央）
７月 31 日（金）１時限　　履修者数　２　提出者数　２

１.この授業を履修した理由は何ですか。
・堀田先生の授業だからです
・単位のため。日本だけでなく、他の国のことも知れる授業だと思ったから。

２.この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
・多くの国の保育の質について知ることができ、研究にも役立ちました。
・複式学級に関わるフィンランドの教育について深く知れたので良かったです。

３.全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
・もう一人の子の調べていることと、私が調べていることが違うので、とても勉強になっています。
・満足です。自分の興味に関わることを多く取り上げてくれたので良かったです。

４.この授業について、要望があれば記入してください。
・特にありません。・楽しかったです。

以上

【教育人間学特論】（吉野　剛弘）
７月 31 日（金）２時限　　履修者数　２　提出者数　２

１.この授業を履修した理由は何ですか。
・単位のため。どんな授業か興味を持った。
・“教育”というワードにひかれたからです。

２.この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
・院生の興味のある分野に沿ったものになっているので、異年齢での教育について知ることができた。
・批判的に論文を読む、という新たな学びはとても良いものでした。イエナ・プランについて学んだのですが、　翻訳がとても難しかったです。ですが、吉野先生が何でもない疑問点についての質問にとても丁寧にわかりやすく答えて下さるので理解できました。

３.全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
・満足です。イエナ・プランを知れて研究に役立ちそうだと思いました。
・院生活で困ったことなどの相談に乗ってくださり、満足できました。

４.この授業について、要望があれば記入してください。
・特にありません。（複数回答）楽しかったです。

以上

【秋期】授業アンケート実施期間：令和２年 12 月 9 日（月）～ 12 月 20 日（金）

【秋期　授業アンケート】

【子どもの道徳特論】（堀田　諭）
12 月 9 日（水）２時限　　履修者数　２　提出者数　２

１. この授業を履修した理由は何ですか。
・今の子ども達には道徳の授業が大切だと感じたため。その際のヒントを見つけられたらよいと感じたので履修した。
・将来に小学校の先生になった場合に道徳をどう教えていけばよいだろうか、と思い参考になると思い履修した。

２. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
・批判的志向や子ども達が探究し合うこと、特にケア的思考は他の授業で活かせる場面が多々ありました。
・論文のまとめ方や本を読むこと、論文を読むことの大切さが役にたちました。また、論文の種類等も知ることができて勉強になりました。

３. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
・とても充実していました。
・とても満足です。自分が発表したことについて丁寧にコメントをして下さり、とても勉強になりました。
４. この授業について、要望があれば記入してください。
・文献報告の仕方などを教えていただき、大変勉強になりました。少し難しく、力を入れないと完成できないため、次回の学生には初回からまとめ方やハンドアウトを用意すること、自分の考えを書く大切さについて話してあげると良いかと思いました。

【幼稚園教育実践演習】（川喜田昌代、高橋誠）
12 月 10 日（木）　３時限　　履修者数　２　提出者数　２

１. この授業を履修した理由は何ですか。
・必修科目なので履修した
・取らなければならない科目なので履修した。

２. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
・本などをたくさん紹介して下さり、参考になる話をして下さり、今後に活かせることが沢山ありました。
・自由保育について学ぶことができ、小学校授業実践演習での複式学級でも役立つと思いました。また、アンケートの集計、作成等についても理解を深めることができました。

３. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
・満足です。
・自分で作ったアンケートを学生に取れた。自由保育のことや保育の実態について知ることができました。

４. この授業について、要望があれば記入してください。
・アンケートの集計方法について、もう少し詳しく先生から教わることが出来たら有意義になると思いました。

以上

【秋期　授業アンケート】

【教育実践研究特論】（野瀬　清喜）
12 月 10 日（木）　４時限　　履修者数　２　提出者数　２

２. この授業を履修した理由は何ですか。
・資格に必要なので履修しました。
・取らなければならなかったので履修しました。

２. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
・体育の授業中での事件、体育教師のパワハラ問題など様々な視点から大切な事をたくさん学べました。

３. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
・非認知能力について修論に書こうと思っているので、学ぶが深まりよかった。

４. この授業について、要望があれば記入してください。
・特になし

以上

【発達障害支援特論】（増南　太志）
12 月 10 日（木）５時限　　履修者数　２　　提出者数　２

１. この授業を履修した理由は何ですか。
・修了単位に必要のため履修した。
・増南先生の講義を受けたいと思ったからです。

２. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
・様々な子どもがいるので、その支援の方法が役に立ちました。また、障がいについて知識が増えました。
・社会福祉士のことについてなど、学部では学べないことについて調べたりすることができた。

３. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
・満足です。毎回充実したものになっています。
・充実したものになりました。

４. この授業について、要望があれば記入してください。
・特にありません。（複数回答）

以上

【秋期　授業アンケート】

【いじめ・自殺・不登校問題演習】（増南　太志、吉野　剛弘）
12 月 10 日（木）６時限　　履修者数　２　提出者数　２

１. この授業を履修した理由は何ですか。
・いじめや自殺の問題についてあまり学んだことがなく、興味があったから。
小学生を自殺に追い込むほどのことは何なのかを知りたかったので履修した。
・おもしろそうで気になったため履修した。

２. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
・学校の中だけでいじめが起こるのではないのでは、など色々な視点をもてました。
・複式学級にも関わるもの（学校で問題となることあるため）。また、様々な視点で考えることが役にたちました。

３. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
・読み応えのある論文審査報告書と先生方の意見が新鮮でよかったです。
・満足です。色々な視点の考え方が知れました。

４. この授業について、要望があれば記入してください。
・特にありません。

以上

【教育方法学特論】（浦野　弘）
12 月 15 日（火）２時限　　履修者数　２　提出者数　２

１. この授業を履修した理由は何ですか。
・教育方法学について興味があったことと、お世話になっている先生の講義なので履修しました。
・資格に必要な単位の為、履修しました。

２. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
・学習意欲をデザインする、ということはとても難しく、様々な方法があり、色々な場面で使えるということが分かり、今後の役に立ちそうです。
・秋期の始まる頃に、学習意欲について研究をしようか悩んでいましたので、学習意欲について知れるきっかけとなりました。

３. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
・やりがいがあり、討論し合えてよかったです。
・本の読み方や、自分の解釈の違いなど、間違っていることとかを指摘してくださいました。

４. この授業について、要望があれば記入してください。
・特にありません。

以上

5　教員による授業報告

本研究科では、大学院教育の改善・充実を図るべく、教育力向上に役立てることを目標に、個別の授業担当教員はもとより、大学院で授業を担当する教員全体で、改善点等をそれぞれが認識し、以後改善を図ることができるよう、授業担当教員による授業報告の提出を全担当教員に求めている。

令和２年度　埼玉学園大学院　子ども教育学研究科　教員による授業報告

担当教員：堀田　正央
科目名：多文化子ども教育特論
・2名の履修者だったこともあり、一人ひとりの将来の展望や学術的興味に寄り添った内容を取り上げることができた。できるだけ修士論文等に寄与する知識や方法論を身に着けるため、プレゼンテーション等を多く課したが、両名共に積極的に取り組み一定の成果が得られたと考えている。履修者が増えた場合に同じ水準で取り組める様、年度毎に内容や方法を見直して行きたい。
科目名：地域連携プロジェクト演習
・院生2名のそれぞれの進路（小学校・保育園）において、実践可能な地域連携プロジェクト案を作成する、という作業に取り組んでもらった。毎回、パワーポイントを用いた報告後に、全員でディスカッションを重ねた。自らの問題意識がさまざまな議論によって鍛えられ、具体的プロジェクトとして形になっていく一連の経験は、院生にとって主体的な学びを深める貴重な機会となったと考えている。
科目名：教育課題研究Ⅱ
・修士論文の作成に向けて、社会調査法を始めとした研究計画のメソドロジーへの理解を深め、具体的な研究計画を立案することに繋げた。次年度の学会発表へエントリーし、論文要旨等を整える過程で、学んだことを実際に生かす機会を持った。履修者が1名であり、全ての内容について学生が主体的に取り組むための環境を整え、授業時間外でも多くのディスカッションを行った。

担当教員：浦野　弘
科目名：教育方法学特論
・受講者2名の修了後の進路希望等に即して，本講義のテーマであるEducational Designの中でも，「学習意欲のデザイン」に焦点をあて，講義を再構成した。 ・講義の方法としては，輪講のスタイルをとった。その結果，学生のアンケートにあるような「本の読み方」というような基本的な読み方や，既有の知識と結びつけるようなことにも，重きを置きながら指導を行った。とりわけ，理論と実践の往還という視点から具体的なイメージを把握させることに努めた。

令和２年度　埼玉学園大学院　子ども教育学研究科　教員による授業報告

担当教員：齋藤　　昇
科目名：子どもの数・図形概念特論
・本授業では、受講者が、子どもの数・図形概念の芽生え、発達過程について理解するとともに、子どもの創造性を伸ばす山登り式学習法や新たなアイディアを生み出す発散的思考活性化法等の指導法を身につけることをねらいとした。 受講者は、学習内容について疑問に思ったことや発展的な考えについて、よく質問・討議し、理解を深めたようである。受講者の学習活動に対する取り組み、意欲、積極性、学習態度は、極めて良好であった。 次年度は、指導内容をさらに精選し、受講者の主体的・独創的能力を一層育む授業を工夫したい。

担当教員：長友　大幸
科目名：子どもの科学認識特論
・ものづくりや教育現場における事例を示しながら、子どもの科学的概念が形成される過程を学べるようにした。そして、興味がある単元の指導案を作成して模擬授業を通して理解を深め、教育現場での実践に役立てられるようにした。
科目名：教育課題研究Ⅱ
・コロナ過の中、対外的な調査に制限があるため、文献調査を進めるとともに、在学生に対する調査など、身近なところで行うことができる調査を可能な限り進められるようにした。また、調査により明らかになったことは、すぐにまとめるようにし、発表の仕方にも工夫をするようにした。

担当教員：野瀬　清喜
科目名：教育実践研究特論
・これからの保育、幼児教育、初等教育の中核となる「非認知能力」、の育成について論じた。 　また、実践的な活動や事例研究として教育組織のガバナンスやコンプライアンスの強化とコンフリクト・マネージメント（対立の回避）の実例をあげて解説した。 　改善すべき課題としては、家庭教育を含めた映像資料の活用が十分とはいえなかった。保育者、教員からの目線のみではなく、保護者の視線からの運営についても論じる必要があった。

令和２年度　埼玉学園大学院　子ども教育学研究科　教員による授業報告

担当教員：森本　昭宏
科目名：子どもの造形表現特論
・学校・家庭・地域社会など、様々な芸術教育のあり方について深く学ぶとともに、造形の教育者として幅広い見識と応用力を身に付けることを目的として授業を組み立てた。特に造形活動と地域社会との連携について、多面的に考察した内容を授業の中で展開。森林公園での親子を対象としたワークショップは学生主体で開催。見本の制作から準備・運営など環境を整え補助に回った。ICT を活用したデジタル絵本ではｵﾘｼﾞﾅﾙｽﾄｰﾘｰ構成・撮影・編集など作り方を指導。作品を通して入院患者（障害のある子ども）への社会貢献に繋げた。

担当教員：川喜田昌代
科目名：幼稚園教育実践演習
・実践演習ということで、幼稚園での実際の保育を見学及び、園長先生へのインタビューを行なった。 そこでは、幼稚園教育の形態である自由保育を中心とした保育・教育を行ており、その実践を観察し、また、その形態の在り方、その特徴、 就学前教育の重要性等を、園長先生よりお話いただいた。 それぞれの研究テーマとの関係性、研究に向けての基礎的な知識を得ることができた。 　さらに充実した学びにつなげるために、事前学習の確認や見学・観察の期間も含め、検討していきたい。

担当教員：増南　太志
科目名：発達障害支援特論
・授業では、発達障害に関する基礎知識について指導するとともに、発達障害児の特徴を把握するための認知検査を体験をとおして学んでもらった。また、発達障害に関する資料を院生が事前にまとめて発表する形式で授業を行った。やや難易度の高い資料であったが、自分たちなりによく勉強してきていた。
科目名：いじめ・自殺・不登校問題演習
・授業では、いじめ・自殺・不登校に関するビデオ視聴とディスカッションにより、この問題に関してこれまでどのように考えられてきたのかについて理解を深めた。また、いじめ・自殺・不登校に関する最新の論文の読み合わせとディスカッションにより、現状の課題について検討した。 論文については２名の院生が資料としてまとめ、発表をする形式で授業を行った。いずれの院生も自分たちなりによくまとめ、疑問を持つなどすることができており、よい学びになったと思われる。

令和２年度　埼玉学園大学院　子ども教育学研究科　教員による授業報告

担当教員：吉野　剛弘
科目名：教育人間学特論
・今年度も履修者が修士１年の学生だけだったが、履修者の関心を考慮し、古典というべき著作を通して、シラバスに示した授業内容を扱う方式を取った。履修者にもその意図は十分に伝わっていたようで何よりである。来年度以降も履修者の状況を十分に加味しつつ授業を構成していくようにしたい。
科目名：いじめ・自殺・不登校問題演習
・授業では、いじめ・自殺・不登校に関するビデオ視聴とディスカッションにより、この問題に関してこれまでどのように考えられてきたのかについて理解を深めた。また、いじめ・自殺・不登校に関する最新の論文の読み合わせとディスカッションにより、現状の課題について検討した。 論文については２名の院生が資料としてまとめ、発表をする形式で授業を行った。いずれの院生も自分たちなりによくまとめ、疑問を持つなどすることができており、よい学びになったと思われる。

担当教員：高橋　　誠
科目名：子ども発達特論
・学生自身が子どもの発達に関して考察を深め、その内容について学部生に伝えるという模擬授業形式の授業を実施した。深い考察を行って授業を実践することが困難かつ配慮の欠ける学生がいることに気づくことができず、学部生に誤った内容を伝えるリスクがあった。今後は学生の能力を把握した課題設定を心掛けるていきたい。

令和２年度　埼玉学園大学院　子ども教育学研究科　教員による授業報告

担当教員：堀田　諭
科目名：子どもと道徳特論
・本授業では、道徳教育の理念に即しながら、なぜ昨今「道徳」が注目され、特別の教科設置まで至ったのか、その経緯と実際について検討していくことで、教育政策として設置された意義と可能性、そしてその限界点を見据えていくことを主眼として授業を実施した。 　授業の中では、自らの言葉や記述を大事にし、また他者の言葉も丁寧に聴くことで、常に公正・公平な対話空間を構築することを心がけた。その中で、上述した近年の道徳教育の限界点を超えるために、実践の検討及び文献の読解を課題とした。 　学生にとっては、レジュメの作り方や発表方法などの技法の習得のみならず、これまで受けてきた教育の目的・内容・方法を相対化したり、道徳教育について自ら課題を設定して他者にわかりやすく伝えて討議することで新たな気づきを得る重要性を認識できたりと、自他の教育の位置を確認し、よりよい教育に向けた示唆や方向性を考える作法を身に付ける事ができたのではないかと考える。また、学部や大学院の授業、修士論文との関連やその意義、「なぜ」と考え、根拠や証拠を示して他者と議論することの重要性を体感できたものと考える。

担当教員：細川太輔
科目名：小学校授業実践演習
・できるだけ具体的に映像や写真を見せながら児童の学びを解説した。実際に学生に活動させ、理解を深めることも行った。
科目名：子どもの言葉特論
・学生の希望を聞きながら文献を選び、難しいところがあれば具体例を挙げさせて一緒に文献を読んだ。

6　研究発表会及び意見交換会

大学院担当教員相互の研究交流を図るとともに、学生及び教員との意見交換の場を設け、今後の大学院の教育研究活動の活性化に資することを目的として次の研究発表会及び意見交換会を実施した。

6-1　研究発表会

日　　時：令和２年９月 16 日(水)　11：00～12：00

場　　所：埼玉学園大学３号館　３階 304 教室

参 加 者：大学院担当専任教員、客員教員及び学部専任教員、学部生

内　　容：

テーマ：「公共圏参入場面における子どもの関心・価値観の変容に関する研究」

発表者：堀田諭　子ども教育学研究科　講師

6-2　大学院専任教員と大学院生による意見交換会

日　　時：令和２年 10 月 28 日(水)　13：00～14：10

場　　所：埼玉学園大学３号館　３階　子ども教育学実験実習室

参加者数：11 名（教員 10 名、大学院生１名）

内　　容：

主な意見

・大学院は修士論文の作成を目標としているので、講義の中でも文献報告の仕方や論文発表の仕方を授業に取り入れながら行っている。

・学部生の頃よりも授業中での発言や質問がしやすいなどの感想が述べられた。

7　論文審査について

本大学院子ども教育学研究科では、修士論文作成過程において、１年次に構想発表会、２年次に２回の中間報告会を実施することとしている。令和２年度おいては、修了年次生が在籍していなかったこともあり、中間報告会については未実施の年となった。

８　おわりに（今後にむけて）

令和２年度は、令和元年度のFD活動の報告をもとに、さらなる検討を加えた。先に掲げた各授業の担当教員による「教員の授業報告」及び、「大学院専任教員と大学院生による意見交換会」「大学院専任教員による意見交換会」により、院生と各科目担当教員、担当教員同士の話し合いをもとにした授業の振り返りによれば、「教育の理論と実践を往還しながら、自らの教育実践理論を構築できる資質と力量」の育成を目指した大学院教育が実施できたと評価できる。また、一期生は、卒業後、修士論文を発展させ、学会においても発表を行っていることも、本研究科における学びの成果である。

今後も、客員教員を含め大学院担当教員は、将来スクールリーダーとして活躍できる高度な専門的知識と技術を修得した人材養成が目指す大学院教育の在り方を研究し、実践していく所存である。

参考資料１

埼玉学園大学大学院FD委員会規程

平成22年 5月12日制定

（目的及び設置）

第 1 条　本大学院に、授業内容及び教育方法を改善し、その質的充実を図るとともに、教員の教育力の向上に資すること（Faculty Development。以下「ＦＤ」という。）を目的とし、ＦＤ委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（任　務）

第 2 条　委員会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項について組織的な推進を図ることを任務とする。

⑴　ＦＤ活動の企画立案に関すること

⑵　ＦＤ活動に関する情報収集及び提供に関すること

⑶　ＦＤ活動についての評価及び報告書の作成に関すること

⑷　学長の諮問した事項に関すること

⑸　その他大学院のＦＤの推進に関すること

（組　織）

第 3 条　委員会は、次の委員をもって組織する。

⑴　研究科長

⑵　専攻主任

⑶　専任教員のうち、研究科委員会より選出された教員　若干名

（任　期）

第 4 条　委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第 5 条　委員会に委員長を置き、委員長は研究科委員会の議を経て、学長が指名する。

2　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3　委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

（会　議）

第 6 条　会議は、過半数の委員の出席がなければ議事を開き、議決することができない。

2　議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（委員以外の者の出席）

第 7 条　委員会は、必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

（事　務）

第 8 条　委員会の事務は、事務局教務課において処理する。

附　則

1　この規程は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

2　この規程施行後、最初に就任する委員の任期は、第 4 条の規定にかかわらず平成 23 年 3 月 31 日までとする。

参考資料２

令和２年度

授業についてのアンケート（講義科目、研究指導科目）

科目名（　　）
教員名（　　）
月　　日　　曜日　　時限実施
※上記、記載漏れがないようお願いします

大学院の授業の質的向上のために、アンケート調査を行います。下記質問について、自由に記述してください。なお、このアンケートが成績評価に影響することは一切ありません。

１．この授業を履修した理由は何ですか？
２．この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか？
３．全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
４．この授業について、要望があれば記入してください。

ご協力ありがとうございました。